事業完了報告書

提出日：2023 年　3 月　31 日

1．事業概要

（1）実行団体名：宮城県障がい者カヌー協会
（2）事業名　：　カヌーを通じての共生社会、インクルーシブの実現
（3）事業実施期間：　2020 年 4 月～2023 年 3 月
（4）資金分配団体名：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（略称：Ｂ＆Ｇ財団）

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑　完了　／　☐　整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2）　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☐　全て公開した　／　☐　一部未公開　／　☑　未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。 当協会は現段階では設立 3 年目の任意団体であり web サイトを公開していない。 そのため、資金分配団体である（公財）B&G 財団の公式 web サイト（https://www.bgf.or.jp/）内 「(休眠預金活用事業）障害児等の体験格差解消事業」ページにおける当協会の紹介ページにおいて規程類を公開する。 公開予定日：2023 年 3 月中。
（3）　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐　変更があり報告済　／　☐　変更があったが未報告　／　☑　変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）　社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ

→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☐ 内部に窓口を設置 ／ ☐ 外部に窓口を設置 ／ ☑ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。 PO に相談して JANPIA の窓口を利用することで整備
（7） 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
☑ 外部監査 ／ ☑ 内部監査 ／ ☐ 実施予定もない ※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。 ・当協会の会計（財源）は休眠預金のみのため、提出書類にて監査を実施
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☐ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☐ 広報制作物に表示している ☐ 報告書に表示している ／ ☐ イベント実施時に表示している ☑ その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：購入備品にステッカーを貼付している。

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	無	
広報制作物等	有	協会パンフレット
報告書等	有	活動評価報告冊子

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

事後評価報告書の１０．知見・提言に記載した内容と重複するが、下記内容を課題としたい。

・・・水辺の体験は用具、場所の物理要因から健常児でも体験に格差があるのだが、障害当事者はそこに障害があるため、なお格差がある。障害は「機能の障害」と「障壁」が絡み合ってできるものなのであるが、機能の障害に関しては大枠で身体障害、知的障害、などは認識されてはいても細かい認識はされていない。精神障害を重複する２次障害に関してはなおさらである。障壁も事物、制度、慣行、観念の４つの障壁があるのだが、バリアフリーといえば事物が多く認識されて、他の３つの意識は低い。知的・発達障害はこの３つの障壁が多く、障害当事者の保護者は健常児の混ざった体験会では参加出来ないため諦めるといった保護者自身にも格差がある。今回の事業においても事物の障壁より他の障壁を排除することが多く、そこを重点化したことが達成度に比例した。３障壁は目で見えるものではないので、支援者側も認識していない事が多い。

今後の活動においても、４つの障壁をしっかりと念頭において事業を計画・運営していきたい。

【添付資料】

①3 年目となる 2022 年 8 月には、東日本震災遺構でもある仙台市若林区荒浜の貞山運河を会場に、「インクルーシブカヌー体験会」を開催（児童発達支援や障害児向けスイミングスクールを手掛ける一般社団法人 MOTTO、地域団体である荒浜の恵みキッチンとの共催）。
仙台市内外から障がい児・障がい者を抱える家庭が多数集まり、水辺の自然体験活動に挑戦した。

②2022 年 12 月には仙台市内温水プールにて「インクルーシブカヌー体験会」を開催。
　休眠預金活用事業の進捗に合わせて、これまでに事例のなかった複数のプール施設の利用を進めている。それによってより多くの障がい児・障がい者に活動参加の門戸が広がっている。
この時は、近隣の特別支援学校（盲学校）への案内を通じ、初めて全盲児童 2 人が参加するなど、クチコミや評判によって参加希望者の広がりを実感している。

③本事業を通じてジュニアパラカヌー競技選手として発掘し、現在レースに向けたトレーニングを積んでいる２名のジュニア選手。（左：鈴木杏奈選手・中１、加藤柊選手・小５）
水上練習ができない日も、陸上で「エルゴメーター」と呼ばれる機械を使ってトレーニングを行っている。

以上